

2015年熊野寮祭企画「ストーム」に関するツイートについて

2016.08.04

熊野寮自治会

2015年の熊野寮祭(以下、寮祭)の一企画「ストーム」が終わった後に、一参加者であった熊野寮生がストームにおけるセクハラを示唆するツイートをし、寮内外の多くの人々の目に触れるという事件がありました。熊野寮自治会は(以下、寮自治会)この事実を重く受けとめ、本件で不快に感じたすべての方々に謝罪します。また、この声明文を広く社会に発表することにより、二度とこのようなハラスメントを起こさないという決意を新たにしたいと考えております。

1. 事実経過

2015年12月5日

午前0時頃 吉田寮にて、寮祭の一企画であるストームが行われる。

午前1時半頃 熊野寮生が発端となったツイートをする。

「ストームのどさくさに紛れて吉田寮女子寮生に触るという目的を達成できて良かった」

朝にかけて、このツイートへの批判と擁護が展開される。熊野寮生・吉田寮生のみならず反応は寮外にも及ぶ。

批判ツイートの内容：二度とすべきではない。強制退寮になってもおかしくない話。

擁護ツイートの内容：祭の場だから許される。本人は冗談のつもり。ネット上ではこれくらいのことは許される。

2-1. 寮自治会の立場

この問題は、直接の加害者である寮生個人だけでなく寮自治会にも責任があります。発端のツイート及び擁護ツイートは個々の寮生が発信したのですが、そのような発言が許される空気が寮内にあること、寮自治会としての動きが後手に回っていること、その結果多くの人が傷付いていることは寮自治会の責任です。

参加者の自己責任を問う声も一定数あります。参加者の自己責任を問うためには、主催者が事前にリスクを提示して参加者の選択に必要な情報を提供しておくことが最低限の条件です。しかし今回のストームにおいてそのようなリスクの提示がなされることはなく、したがって参加者の自己責任を問うことはできません。

熊野寮祭は寮自治会が主催する行事です。寮自治会にはその中でトラブルが起きたり、参加する人の安全が脅かされたり、不快な思いをしたりしないように考え、祭の中で起きうる危険について周知する責任があったはずですが、そしてその中で問題が起きてしまった以上、寮自治会としてできる対応をしなければいけません。また、今後の再発防止策を考えるなどの対処をする必要もあります。

2-2. 寮自治会と熊野寮祭実行委員会との関係

熊野寮祭実行委員会（以下、寮祭実）は、その年に入ったすべての新入寮生と、熊野寮生有志で構成されています。寮祭実の幹部は主に一回生によって構成されています。

寮祭実は熊野寮祭の責任者というよりは、あくまで企画の募集・予算配分の検討・スケジュールの調整などを行う機関であり、問題が生じた際の対応は主に上回生がするのが通例です。またその場で対処しきれない問題に関しては寮自治会で議論をして対応することになっています。ゆえに本件の総括がなされないままに寮祭実が解散したのは、総括すべき主体が寮祭実ではなく寮自治会であるためです。

3. 寮自治会としての謝罪

3-1. ストームに参加した女性・特に吉田寮生の方へ

発端となったツイートについて、ツイートした本人は「触るために参加したわけではないし、実際に意図的に触ってはいない、ツイートは一種のネタであった」と発言しています。しかしツイートそれ自体が吉田寮の女子寮生をはじめとした人々を不快にさせるセクハラ行為です。

発端のツイートによって、ストームに参加した人（特に女性）に、体を触りたいという目的で参加した人がいた、そして自分がその対象になったかもしれないと思わせる事態となりました。また、その内容を許容した一連のツイートとともに、ストームに参加した女子寮生に強烈な不快感や恐怖心を覚えさせてしまったと思います。寮自治会のイベントの中でこのような経験をさせてしまって申し訳ございません。

3-2. 一連の経緯によって不快な思いをしたすべての方へ

3-2-1. 一連のツイートについて

ストームに参加していない方でも、一連のツイートを見て不安や不信感を覚えた方もいると思います。

発端のツイートを批判したツイートが感情的であったために、発端のツイートをした人への擁護が増加してしまいました。そしてその擁護ツイートは、本人たちの意図がどうであれ、セクハラを容認しているものでした。

この一連のツイートによって、熊野寮全体がセクハラ行為を是認する場だ、あるいはそのような傾向があると寮内外に発信してしまいました。実際、熊野寮内においても「寮自治会は人権を守ってくれないのか」と思った寮生がいました。

3-2-2. 問題が発生する土壌を熊野寮が作ったこと

2015年の寮祭は、祭の中でのハラスメントを容認しないという立場を明確にして行われたものではありませんでした。もちろん社会全般でハラスメントは容認されませんが、寮祭という場で改めて、ハラスメントを容認しないという立場を、寮祭実や企画責任者が参加者にはっきりと示すべきでした。

今回の問題は、社会の規範から逸脱した行為を武勇として語ることによってウケを狙う、ツイッター特有の文化の中で起きたと思います。しかしツイッター文化の特殊性は言い訳にはなりません。むしろ、ツイッターあるいはネット上であることを言い訳にハラスメント発言が許される風潮が熊野寮にあるということは大きな課題です。

また、発端のツイートを擁護するツイートでは、「祭の場であること」が擁護の理由として使われていました。祭の場では、トラブルの危険性とそれへの対応よりも普段より解放的な楽しみや興奮が優先さ

れるという論理で、当該ツイートへの批判を「祭に水を差す野暮な行為」として否定するというものです。しかし、一部の人の「非日常の興奮」のために他の参加者の安心・安全を脅かすことは許されません。祭という場の特性上、普段より解放的になるのは仕方ないことではありますが、だからこその他の参加者へのいっそうの配慮が不可欠だといえます。

セクハラなどハラスメントの話は、予防のためにも、そして何か事件が起きたときに迅速に対応するためにも日頃からの意識的な心がけが必要です。寮自治会はこの点について不十分でした。

3-2-3. 問題への不適切な対処

ストームから半年も経つ今日に至るまで寮自治会としての声明が遅れています。それによって事件の当事者の方々へ正式な対応がとれていません。また本件について吉田寮自治会から声明が出ているにもかかわらず迅速な対応をとれていません。

寮自治会はこの問題に誠実に対応する気がないのではないかとストーム参加者を始めとした各関係者に思わせ、不信感や恐怖心を煽りました。寮祭の企画において責任主体が不明確であったことが原因の一つです。イベントを主催する立場として、不十分でした。重ねてお詫び申し上げます。

3-2-4. 吉田寮自治会との交流の場

熊野寮吉田寮両自治会の、そして参加者全体の交流の場である寮祭において、その意義を果たすことができませんでした。そればかりか、音楽祭などの行事や会議等の交流で積み上げてきた信頼関係を壊し、交流しようという参加者の意志を減退させてしまいました。

4. 今後の寮自治会としての行動

熊野寮・熊野寮主催の行事で類似のことが起きないように以下の事柄を行い、ハラスメント予防に尽力します。

4-1. 引継

この声明文・寮内部の総括文・吉田寮自治会から出された声明文という 3 つの文章を寮自治会で引き継ぐことによって、二度とこのようなことが起きないようにします。どのような問題点があったか、イベントを主催するものにどのような責任が求められるのか、ハラスメントを予防する為にはどのような対策が必要か、今回の件から学んだことを具体的に引き継ぎます。そして、毎年結成されている寮祭実にも今回の経緯をきちんと説明し、寮祭でのハラスメント予防に尽力します。

4-2. 寮祭において

寮祭で問題が発生した時に自治会内部でどの機関が対応するのかを明確にします。すべての寮祭参加者にわかるかたちで、寮祭内でハラスメントやトラブルが起きた際にどこに相談したらいいか明示します。

4-3. 日頃のハラスメント予防

寮祭に限らず、日頃から寮内でハラスメントが起きないように寮生一人一人が心掛けます。また、全員が安心して暮らせる寮のあり方について議論します。そして、ハラスメント被害に対応できる機関・部署を充実させ、これについて寮内で周知・呼びかけを徹底することで、問題が生じたときに声をあげやすくします。